

令和6年度使用小学校用教科用図書の採択結果等について

採択地区名	世羅町
-------	-----

種目	発行者	採 択 理 由
国語	光村	<p>○基礎・基本の定着について、単元・題材の目標の示し方の工夫として、学習の流れを示したページに問いと目標を並べて示し、児童の問いを目標へとつなげることができるように整理されている。また、情報の扱い方に関連する単元の前後に「情報」を配置し、各領域の学習活動を関連させることができるように整理されている。</p> <p>○興味・関心を高めるための工夫として、低・中学年では児童が日常生活の中で直面しやすい問題場面・問題状況が、高学年では多様性や環境など実社会と結び付いた教材が設定されている。また、課題解決的な学習を実施するための工夫として、子供の問いから学びが始まるような学習展開が設定されている。</p> <p>○巻頭には、「○年生で学ぶこと」として、「話す・聞く」「書く」「読む」及び「言葉」の観点ごとに身に付けたい力と単元名が示されている。また、前学年の学習が下段に明記され、どの学習と関連があるのかが線で結ばれており、確認できるようになっている。</p>
書写	東書	<p>○基礎・基本の定着については、目標を「見つけよう」として示されており、その目標を達成させるために、おさえるべき事項が整理されている。また、最初の単元では、書きやすい姿勢（足・背すじ・手）を意識させるために、リズムカルな標語で色を使って分かりやすく示されている。</p> <p>○内容の構成・配列・分量について、書写学習の基礎・基本的な事項を確実に習得できるよう、学年の発達段階に応じて重点化しながら、系統的に単元が配列されている。また、伝統と文化に関する内容の記述として、全学年で「文字といっしょに」が設定されており、様々な観点から文化に触れる活動が設定されている。さらに、世界の文字や、ひらがな表のもとになった漢字、カタカナ及びローマ字も示されている。</p>
社会	東書	<p>○主体的に学習に取り組む工夫として、単元の導入において、単元の内容を身に付けさせるための学習の仕方が示されている。また、毎時間ごとに「まなびのポイント」が示され、考える視点が明確にされている。</p> <p>○QRコンテンツとして、学習計画ワークシート、学習のまとめのワークシート、学習の進め方を確かめる動画、教科書に記載されている写真に関わりがある動画や、働く人へのインタビュー動画が用意されており、児童が見通しをもって学習を進め、実感を伴った理解ができるようになっている。</p> <p>○観察・調査や資料活用を通して収集した情報を基に、互いの考えを深めていくための工夫として、「社会科の学習の進め方」と題して、「つかむ→調べる→まとめる→いかす」といった探究の基本的な進め方が示されている。また、社会科の見方・考え方に注目しやすくするために、キャラクターのセリフを目印として、位置や広がり、時間、かわり、比較・分類・総合・関連付けといった社会科の見方・考え方が紹介されている。</p>

種 目	発行者	採 択 理 由
地図	帝国	<p>○基礎・基本の定着については、問題解決的な手立てとして、実際に地図を使いながら学んでいく設定となっている。また、土地の使われ方の色分けについて記載していたり、記号の種類や意味、色分けで陸の高さや土地利用索引の使い方、縮尺の見方や距離の測り方を示したりするなど、より分かりやすく使い方が説明されている。</p> <p>○索引は、項目ごとに色と記号を使い分けて記載されており、児童が主体的に学習に取り組むための構成上の工夫がされている。</p>
算数	東書	<p>○基礎・基本の定着については、単元はじめに、児童同士の対話によって目標を設定するようになっている。また、学習の最後に、次の学習につながる疑問が示されており、今後の学習の見通しがもてるようになっている。</p> <p>○内容の表現・表記について、第2学年以上の巻末に単元末と類似する補充の問題が設定され、基本的な内容と少し進んだ内容の難易度別の構成となっている。単元のまとめとして練習問題、補充問題及び追加問題（デジタル）を設定するなど、単元や資料等の配列の工夫がされている。</p> <p>○数学的な表現を用いて自分の考えを説明する活動の工夫として、「今日の深い学び」を設定し、学習過程とともに側注として「数学的な見方・考え方」など話し合い活動を進めるためのヒントが書かれており、それを基に説明する活動が展開できるようになっている。</p>
理科	啓林館	<p>○基礎・基本の定着について、観察・実験の技能を習得させるための工夫として、番号と点線で手順が示され、写真や図等を用いて説明されている。また、手順と合わせて、初めて使う器具は同ページに記載されている。さらに、安全に対して配慮が必要な箇所に「注意」マークを付け、意味や対処の仕方を赤字で示すとともに、「かん気」や「やけど」等のマークが示されている。</p> <p>○問題解決の力を育成する工夫として、問題設定場面において、児童の話し合いの内容例が吹き出しで表現され、さらにその一部に下線が引かれていることで、注目する視点が示されている。また、まとめの後にある「理科の広場」で身近な事象を取り扱っており、考察したことが確認できるようになっている。</p> <p>○巻頭に「理科の楽しみ方」として、問題解決の流れと学習のポイントの例が示されている。また、季節と関係性を重視したり、同じ領域区分の単元間で関連があるものを結び付けて学習したりすることができるよう、単元の配列が工夫されている。</p>
生活	啓林館	<p>○主体的に学習に取り組む工夫として、スタートカリキュラムに沿って、幼児期の経験を発揮しながら楽しく学校生活が始められる内容や、他教科で学んだことを生かしながら、表現活動や振り返りに取り組める内容が設定されている。</p> <p>○内容の表現・表記の特徴として、見開き2ページの左上に、単元導入の「わくわく」、主な活動の「いきいき」、表現活動の「ぐんぐん」の3段階のマークで単元の流れが示されている。また、QRコンテンツとして、単元にあった「デジタル単元ブック」を掲載し、紙面とデジタルの両面で確認できるようになっている。</p>
音楽	教出	<p>○基礎・基本の定着のための工夫として、各教材に「おんがくのもと」というコーナーを設定し、学習の手がかりとなる音楽要素が示されている。また、キャラクターの吹き出しなどで、児童に気付かせたいポイントが明記されている。</p> <p>○我が国の音楽に関する内容の扱いについて、日本古来の歌の学習と世界の音楽の学習を比較しながら文化の良さに気付けるように工夫されている。</p> <p>○表現及び鑑賞領域における言語活動の工夫として、感じ方の違いを表現できるように、聞き取ったことを書き込めるようなワークシート（QRコード）が用意されている。</p>

種 目	発行者	採 択 理 由
図画工作	開隆堂	<p>○基礎・基本の定着のための工夫として、各題材の目標が、資質・能力を表す3種類のキャラクターと文で示されている。また、学習のめあてに対応し、どのような資質・能力を身に付けたかを確認できるように問いかけることで、ふり返りの視点が示されている。さらに、全ての学年の全ての題材ごとに、使用する用具や材料について、ページ左上に材料名や用具名がイラスト付きで示されている。</p> <p>○題材や資料等の配列の工夫として、全ての学年の項目において、題材を、造形遊び、絵、立体、工作及び鑑賞の5項目に分類して配列したり、作品を作った後に関連する鑑賞題材を配置したりするなど配列の工夫がされている。また、就学前教育からの接続、中学校との接続やキャリア教育への対応が示されている。</p>
家庭	開隆堂	<p>○基礎・基本の定着のための工夫として、全ての題材で、学習の流れが示され、学習の進め方の文言と共に示されている。また、それぞれの学習段階に合わせて、めあてにチェック箇所が設定されている。</p> <p>○主体的に学習に取り組む工夫として、4つの視点をクローバーの葉で表現され、題材ごとにどの視点から学習を進めていけばよいかを冒頭で示されている。また、題材ごとに題材全体に対する振り返り、生活に生かすための目標が書けるようになっている。</p> <p>○本文記述との適切な関連付けがなされたイラスト・写真が活用されている。例えば、野菜の切り方の説明がそれぞれの題材のページに絵と動画で示されている。また、右利き左利きの動画が、一つにまとめられている。</p>
保健	学研	<p>○主体的に学習に取り組む工夫として、学習の進め方や課題解決の過程は、先頭ページの左上に時計のような形で示され、児童が今後実行したいことと学習の進め方に対する振り返りを文章で記述する形で設定されている。また、単元導入で、写真や絵を基に今までの経験を振り返る活動が設定されている。さらに、「ここまで学習したことを生かしてどんなことができそうか書いてみましょう」「学習の進め方について自分で工夫したことや、もっと学習したいこと、なるほどと思ったことを書いておきましょう」の中では、実生活・実社会につなげて考えられるようになっている。</p> <p>○単元の終わりに「ほけんのはこ」があるほか、「もっと知りたい・調べたい」が発展的な内容として示されている。</p>
英語	東書	<p>○基礎・基本の定着について、単元のはじめのページに簡単な言葉で目標が示されており、その目標を達成するための小単元の目標が設定されている。また、2時間に1つのテーマで、その単元に関する内容の「Small Talk」が設定されている。</p> <p>○主体的に学習に取り組む工夫として、会話を聞き取る際の視点が明確に示されており、単元のゴール時に話したいことを事前に考え、導入の際に記入する「Your Plan」の欄がある。また、小単元ごとに振り返りができるようになっており、学期ごとに学習したことを振り返る「Check Your Steps」が設定されている。さらに、できるようになったことをチェックできるよう、部冊「My Picture Dictionary」に「CAN-DOの樹」が設定されている。</p> <p>○単元の構成・配列の工夫としては、各活動が5領域のどれに当たるかがマークで示されている。どの単元でも「見る・聞く→話す→読む・書く」といった配列の工夫がされている。</p>

種 目	発行者	採 択 理 由
道徳	日文	<p>○道徳科の学び方として、全ての児童が授業に参加でき、一人一人のよさが引き出され、豊かな学び合いが実現できるよう、学び方が分かりやすく記載されている。また、発問については、冒頭で主題に関わる投げかけが示されており、教材文の終わりには「考えてみよう」と「見つめよう・生かそう」に分けた発問となっている。</p> <p>○現代的な課題等を踏まえた内容の示し方については、いじめを直接的、間接的に扱った教材とコラムを組み合わせ、「人としての関わりユニット」が設定されている。また、コラム「心のベンチ」を設定し、情報モラルやSDGsについて学ぶことができるようになっている。</p>